

## はじめに

今年度から「すくわくプログラム推進事業」が東京都の保育・教育施設を対象に始まりました。内容としては「各園の環境や強みを生かしながら、「光」「音」「植物」など各園が設定するテーマに従って、乳幼児の興味関心に応じた探究活動を実践し、非認知能力の向上をなど、幼児教育・保育の充実を図る幼稚園・保育所などを支援する」というもので“すべての乳幼児の「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探求心（わくわく）」を応援する幼保共通のプログラム”となっています。。そこで当園でも参加することにしました。

## ☆テーマ 「自然」      対象 5 歳児

### テーマの設定理由

日々の保育で園外活動を取り入れている。様々な公園へ行き自然に触れる機会も多く、子どもたちも自然物で遊んだり観察したりする機会が多い。そして当園の特徴の一つでもある、渋谷にない自然を楽しみたいと 5 歳児が夏のキャンプ、冬の菅平への（卒園）旅行に行っていることから、子どもたちとともに渋谷では経験できない「自然」を探究したいと思った。

## ☆活動内容

### 活動1 秋川キャンプ

テーマ「自然」ということで 7 月 24 日～26 日の 2 泊で川遊びなどを中心に秋川の自然に触れてきた。



川流れを  
体験



川の水の  
掛け合いを楽しむ

川の中の生き物を  
探して捕まえる

## 活動2 キャンプ後活動

キャンプ後の活動は2グループに分かれて行った。まず子どもたちの「自然」の認識を知りたくて「自然て何？」と問いかけてみた。木、草、花などや虫、空、海などいろいろ上がった。しかし、漠然とした問いに声を上げない子も出ていました。そこでキャンプで何をしたか、何が楽しかったか、などの経験したことでの話に移してみた。

渋谷と違うと思ったことでは「山があった」「森があった」なども出たが「川遊びができること」が多くの子が感じ、楽しかったことの話に川遊びが多く上がってきた。そこで「川」を中心に話を絞って掘り下げてみた。1回目のグループでなかなか経験したことを思い出し、言葉で表現することが難しかったので2回目のグループでは、現地の遊んでいる写真などを用意し見ながら話すことでいきいろいろな話が出できた。その話をもとに絵で自分の感じた「川」表現することにした。今回はクレヨン画に絞って子どもたちに描いてもらった。いろいろな石があった様子や川で何したかなど話しながら描いているので子どもの感じたことがよく分かった。普段の絵とは違い細かい描写がそれぞれの子の気が付いた、興味を持ったところだと思う。



←写真を見ながら話を膨らませている。

石を細かく描いてその上から水の色を塗って川底を表現



川の周辺を細かく表現。  
オタマジャクシなどの生き物なども描き込んでいた。



## 活動3 菅平旅行への事前活動

秋川キャンプでは事前に子どもたちに問いかけることができなかったもので、今回は事前活動として身近な自然との違いを意識していけるように菅平についての話をした。その中でも「雪」に絞って雪の結晶を画像で見てもらい、結晶も見られるかもしれないと話すと興味を持ったのでそれを絵に描いてみることにした。イメージで描くこと、映像を見て忠実に描こうとすること様々だったがそれぞれの雪の結晶が出来上がった。



← してみたい雪遊び

雪の結晶こんな感じかな？ →





## 活動4 菅平旅行での自然体験

旅行は2月5日～7日まで2泊で言った。菅平は例年より雪が沢山あり、たくさんの雪だからできるソリやタイヤチューブすべりなどの遊びやスコップでかまくら作り、雪玉製造機などで雪投げ、雪に倒れて人型を作るなどたくさんの雪遊びを経験できた。

自然の活動としては準備していった現地だからできる氷づくりや、雪の結晶を虫眼鏡で見ることをした。事前活動をしていたことで子どもたちの関心や意欲が感じられた。

↓雪を虫眼鏡で観察



↑ できた氷を手で持ってみて感触を確かめた

## 活動5 旅行の事後活動

旅行の事後活動（活動5）ではそこでの様子を行った職員と話をし子どもたちが何を感じたかを言葉で表現してみよう、それを何か形に残してみよう、ということをした。。

まず、旅行に行った子どもたち全員に事前活動で話したことを思い出してもらった。そして写真を大型の電子黒板を用いてスライドショーにして一緒に見た。見ながら「〇〇してる」「〇〇ちゃんだ」「これ〇〇だ」と子どもたちは楽しそうに声を上げていた。次にグループに分かれて、渋谷との違いについて話した。多くのことが挙げられた。まとめると渋谷よりずっと寒かった、雪がいっぱい、雪がさらさら、水が氷る、などや渋谷ではできない雪遊びができたなど

（ソリやかまくら作りなど）を話した。



↑スライドを見て経験したこと  
声に出して確かめ合う様子

グループで  
話し合い→



← 雪の結晶が写っているのを見つけた！

## 活動6 制作で表現

話し合って経験したこと、気が付いたことを絵でも工作でもなんでもいいから作品にしてみた。土台となる画用紙も何色か準備し、絵具、お花紙、色画用紙、綿、のりなどの材料を揃えて自由に選んで制作を始めると、これを作りたい、描きたい、というものがはっきりしている子が多く、そろえた材料では足りないもの、例えば色鉛筆が欲しいとか、こうしたいけどどうすればいいかなど職員に相談しながら進めていたり、集中している子が多く、2つ3つと楽しそうに描いたり作ったりした。前回同様、話しながら作っている子も多く子どもたちの発見などがよくわかった。

### 【制作の様子と作品】



好きな素材を選んで製作開始

平面に描いたり、立体にしたりそれぞれ工夫を凝らして自分の感じた菅平の自然を表現している。



※かまくら作り、そりあそび、雪投げ、雪にねころぶ、止まった宿から見える景色などの作品

## まとめ

キャンプでは事前活動が間に合わず、キャンプの実施が一回目の活動になりました。いつもと違う環境の中でも子どもたちは目の前の自然に臆することなくいろいろな挑戦をしていました。2回目の事後活動で「自然」について子どもたちと話を始めました。子どもたちの感じている「自然」は身近なことであるけれど大きくとらえどころがない、どう絞っていけば子どもたちの探求につながっているのかが難しいと感じました。3回目の菅平旅行の事前活動では渋谷では経験できない雪遊びが主な活動になることから「雪」、そして「氷づくり」に絞ってみました。

菅平旅行の中で雪を虫眼鏡で見てみることや氷づくりの活動をする時間をとりましたが、事前活動で話していたことで、自ら積極的に取り組んでいるようでした。虫眼鏡で見るのが思ったより難しかった経験や、氷ができてうれしくて持って帰りたいということでアイスボックスに入れてもってかえって来たりすることができました。

今まで経験したことを言葉にし、絵などで表現してみることによって、子どもたちの細かい気づきがより職員にもわかり、では次は何（経験させること、材料、動機づけなど）を用意すればいいだろうかと広く考えることができると感じました。また、子どもたち自身にも何となくかんじていたことを意識に上げることで、興味への探求に繋がって行くのではないかと思います。

経験したことを「なんでだろう」「〇〇だった」と考えた後、それを表現活動につなげていくと、子どもたちが意識していること、興味をもったことがより強調されて表現に繋がっている様子がわかりました。そして、それが「こうなんだよ」など経験を話ながらとても楽しそうに描いたり、夢中で制作をしているのが印象的でした。

今年度このすくわくプロジェクトを行うにあたり、大型の電子黒板を購入しました。今回は経験したことのスライドショーで使用しました。大きく映ることにより、見ることはできないかと期待していた雪の結晶がはっきりと見ることができました。何回か流しているうちに職員が「これ雪の結晶じゃない？」と気が付き子どもたちもその画像を見て「ほんとだー」「みえた」と大興奮でした。そこから「自分が見たのはどうだった」とか「見えなかったけどこれで見られてよかった」とか「やっぱり同じものはないんだね」など話が広がっていきました。時間があつたらもう少し「雪」についての探求を続けていきたいところです。

日々、子どもたちが子どもの声やつぶやきや、視線などで興味や関心を示していることに気づいて一緒に関心をもっていくことが改めて大切なことだと思いました。

また、テーマをもって行うことで今までと違う活動を計画することができ職員の勉強にもなりました。子どもたちには活動が広がり楽しみが増えることにつながったと思います。